
VIII Information, Language, and Society

第8章 情報, 言語, 社会

Contents

- 1 組織的な活動と情報伝達
 - 2 社会の恒常性と情報伝達
 - 3 社会科学と自然科学
-

1 イントロダクション – 組織的な活動と情報伝達

原著P155 – 157 L27

- 1) 個体が集まり小さな組織を作りそれが更に大きな組織を作るという考え方は古くからあった。
例)
 - ・ 様々な連邦国家
 - ・ 血球などの各種細胞が生命として生存して組織を作り生体はその集合体である (Leibniz)ゲシュタルト：全体性を持ったまとまりのある構造 (第7章より 参照：wikipedia)
- 2) 細胞の集合体のようにフィジカルな結びつきでできた組織より、独立した個体でできた組織、すなわち社会活動を営む動物、人間、牛や蜂の群れの方が哲学的に興味深い。
- 3) 蜂の群れにおける神経は、個体の神経の合計で出来ている。しかし、蜂の群れは個体以上の振る舞いを見せる。高度な社会的な適応力と組織的な活動。**その秘密は個体同士の情報伝達である。**
(P156 L14)
 - 複雑系の科学に繋がる眼差し
- 4) 情報伝達 (Communication) の複雑さや内容 (Information) は種によってそれぞれである。
 - A) 蟻はおそらく数種類の単純な匂いでしか情報伝達できない。それは体内のホルモンと同じく等方拡散的な、指向性のない伝達手段である。
 - 匂い=フェロモン=言語=情報
 - B) 人間の例：言語が通じない未開人とのコミュニケーション
 - 明確な言語を介さなくても、情報を得る事ができる。
 - 社会生活を営む動物は、言語が発達する以前から有効な情報伝達手段を持っていた。

ウィーナーの複雑性 (Complexity) に対する認識

ウィーナーのいう“恒常性”(homeostasis) とエルゴード性(参照: wikipedia)が、現在の複雑系の源流？ (恒常性 = Feed back loopで成り立つ安定 (第4章))

複雑系 (Complex system) の定義

1. 単純なルールで動く個体でできた集団が複雑な振る舞いを見せる
2. 情報をやりとりする
3. 社会に対して適用性がある。進化によって状況を生き残る

2 社会の恒常性と情報伝達

P157 L28 – 162 L16

- 1) コミュニティの大きさは、情報の伝達が効果的に行われる範囲によって決まる。

情報伝達量 = 意思決定量 = 自主性

- 2) コミュニティの大きさと恒常性

- A) 現状の国家のような巨大な統治体は、**恒常性を保つ仕組みに著しく欠ける。**(P158 L33)
von Neumann や Morgenstern の提唱したゲーム理論による支配。

→プレイヤーがすべての局面において最大の報酬を得られるように理詰めで行動する。

→プレイヤーの数が増えるほど予測不能かつ不安定に。(連合と裏切り)

- B) 小さなコミュニティでは、ある決まったメンバーで生きて行かなければならないため、他を出し抜こうとする人間は恩恵を受けられなくなる。→**一定の恒常性を備えている。**(P160 L18)

- 3) **大きなコミュニティでは、情報の伝達には媒体が必要**となる。(P161 L3) 新聞、映画、ラジオは広告の媒体ともなり、広告主の利益に左右される。出版社に利益をもたらさない本は絶版になってしまう。

→情報媒体が持つ第二の側面。

- 4) 我々の社会では、自然資源も人的資源も、企業に搾取される存在。→「第二の側面」の拡大

情報媒体の3つの縛り

1. スポンサーに不利な情報の抹消
2. 裕福で情報媒体を掌握できる人々の意見が強くなる
3. 政治的な効力が強いので、その目的で使われやすい

他の何よりも社会の恒常性に寄与しなければならない**情報伝達手段が、金と権力のゲームにふける連中に掌握されている。**→恒常性を阻害する大きな要因。

5) 大国はその構成要素であるコミュニティより愚かである。

3 社会科学と自然科学

P162 L17 -164

1) 物質環境に対する知識およびコントロールの技術に対して、社会環境のそれが大きく遅れているという自覚から、自然科学の方法を社会学へ拡張するべきという考えがあるが、それはやや楽観的である。(P162 L17)

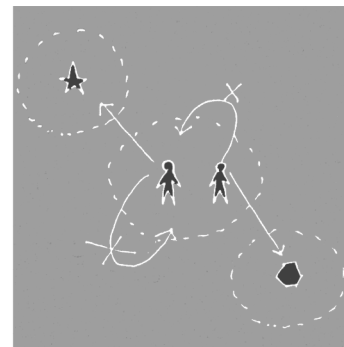


Fig.1 物質 ≠ 社会

2) 自然科学の成功は、観察対象が観察者からかけ離れた所にあるからである。その場合、人間がそれらの営為を乱す事はできない。(Fig.1) (一章との関連性?)

3) 社会学の観察結果は、観察者が作り出したものかも知れない。(Fig.1)

例) インタビューすると相手が変わる
株式市場の調査が市場を刺激

→我々は観察対象とあまりにも干渉し合っている。
→ これまで自然科学がもたらしたような成果を社会学に期待できるわけではない。(P164 L12)

(現在の複雑系の科学への認識とのギャップ)

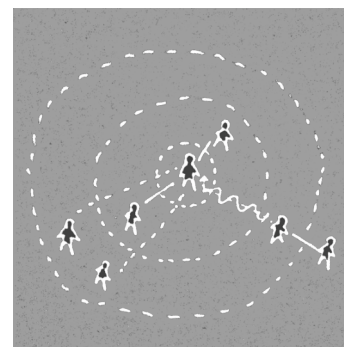


Fig.2 ゆるい結合

4) 研究対象と十分“ゆるく”結合している場合、統計理論があてはまる。(P163 L20) (Fig.2)

例) ネットワークの結びつきの弱い所から重要な情報を得ることが多い

ウェーバーの理論との関連性

文明を分析するためには、その文明の価値を対象化するばかりでなく、分析者の価値をも対象化することもまた必要であり、これを彼[ウェーバー]は<価値自由>とした。そしてこの価値自由[...]は、自覚的に分析者の価値関心によって構成したところの<理念型>でなければならないとした。(湯浅赳男)

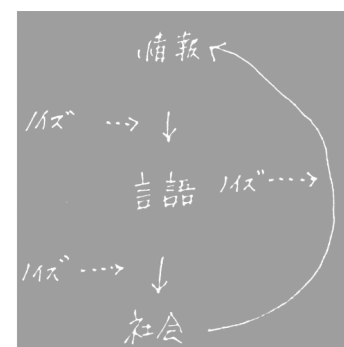


Fig.3 8章のまとめ

